

## JAL闘争を支える京都の会News No.110

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : [kamai123@kfa.biglobe.ne.jp](mailto:kamai123@kfa.biglobe.ne.jp)

# ベテラン社員は会社の宝物 JALはその宝物の社員の首 を切った！

2024年10月8日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「なかまユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドリーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、計14人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「私は日本航空で33年間、客室乗務員を勤めていたが、14年前の大晦日に164名の仲間と共に解雇された。客室乗務員の最大の任務は飛行機を無事に運航させること、そしてお客様の命を守ることである。新人が採用され、研修を終えて飛行機に乗り始めても、



すぐに一人前の仕事ができるわけではない。何が安全で何が安全でないかを判断することが、新人では難しいからである。経験を積み先輩から経験談を聞いて、スキルを身につけていく。今回JAL日本航空が無残にも首を切ったパイロットと客室乗務員、合計165名は全員がそのスキルを身につけた経験20年、30年を超える者だった。どの仕事でもそうかも知れないが、航空の安全を守る航空会社でベテランの乗務員は宝物のようなものである。その宝物をJAL日本航空は165名も首を切った。私たちが解雇になったのは2010年の大晦日であるが、その年

の1月にJALは経営破綻をしたということになっているが、本当のところは何だったのか、一体経営破綻をさせたのは誰なのか、一体どうしてそうなったのか、まったくJAL日本航空は反省をしていない。過去の経営者も誰ひとり責任をとっていない。責任を取らされたのは解雇になった165名のパイロットと客室乗務員だけである。過去の放漫経営、そして山崎豊子さんの小説にも書かれた社内の様々な不祥事、労働組合差別、そのような事をJAL



は一切反省せず、今日もJALの飛行機が飛んでいる。社員一人一人が真剣に安全のことを考えて仕事をしているが、なかなか現場の声に耳を傾けないのがJALの経営者である。この4月から初めて女性がJALの社長になった。しかも客室乗務員出身ということで、あちこちマスコミで取り上げられている。私たちが女性が社長になったということで当初は期待して解雇された客室乗務員と話をしてほしいと何度も申し入れをしたが、電話に出ることさえ断

るのが今のJALの社長・鳥取さんである。この12月31日で私たちが解雇されてまる14年になる。12月20日にはJALの本社前で大きな行動がおこなわれる。その前に鳥取さんが住んでおられるご自宅で何度も宣伝をしようと計画を立てている。全国の支援者の皆さんがこの協議の行方を見守ってくれている。それはなぜであろうか。私たちの解雇が大儲けをしながらの解雇であることがまず第一の答えである。そして二つ目は安全を守ってきたベテラン社員の首を切ったこと、これが第二の答えである。そして三つ目は社員がモノが言えないようにしてしまったJAL、社員が自由にモノが言えない労働組合にしたのがJAL日本航空の経営者であるからである。この三つを許してはならないということで、皆さんがこの争議の支援を



我が事のようにして下さっている。ここ京都でも愛媛でも名古屋でも福岡でも、東京は高田の馬場、立川、有楽町、錦糸町でおこなわれている。埼玉でも茨城でもおこなわれている。このように多くの皆さんが、この争議を早期解決をさせようと力を貸して下さっている。先日は海外特派員協会で記者会見をおこなった。現役の客室乗務員が私たちの組合に加入し、この記者会見でも自分の思いを語ってくれた。この解雇問題を解決しないことにはJALは安全を取り戻せない、そういう思いでこの労働組合に加入したとおっしゃっていた。私たちが解雇した稲盛和夫さんの地元の皆さんには、ぜひこの問題にご協力とご理解をいただけたらありがたい。」と訴えました。

次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)  
11月19日(火) 午後2時~3時 伏見・大手筋商店街